

地域政策調査<第3号 2001 No.3 Volume 3>

「地域マネジメントシステム(RMS)による地域の仕組みづくりへの提案」

[要 旨]

1. 「地域マネジメントシステム (R M S)」については、『地域政策研究 vol.2』、『R P レビュー2001 No.1, vol.4』(地域政策研究センター)で基礎的な研究を公表してきたところであるが、本調査報告は、「会津盆地西部における次世代多自然居住地域推進調査」(THINK-B プロジェクト、国土庁・THINK-B 5 町村)に協力して調査をおこなった部分(本文図 1 調査概要図 右列二重線部分)に資料を加え取りまとめたものである。
2. THINK-B プロジェクトの目的は、「多自然居住地域の創造」で、農業や観光を中心とした自律的な経済圏構築につながる生活環境整備であり、そのうち本調査としては、R M S による「地域資源目録」を活用したプロジェクト等の持続的立案へ向けた仕組みづくりを提案するため、以下を目的とした。
 - (a) 広域的連携 (THINK about Borders) における住民参加 (計画への提言、地域資源情報の提供等) や情報インフラ (ホームページ、 G I S 等) 活用等の仕組みづくりのベース資料提供、提案・検討、
 - (b) 将来的に町村合併が検討されるときに、行政界を越えた広がりをもつ地域のベース資料提供 (自然、文化的なまとまりの呈示や施設計画検討のための基礎)
 - (c) 総合的かつ客観的な視点に基づく概観的な地域資源評価、管理及び利活用、保全のあり方の素案の検討。
3. 具体的な作業として、THINK-B プロジェクトの趣旨から今回は、農林・緑地、観光・文化、自然・環境の3つの観点から地域資源を整理したが、それに当たり、地形・地質、河川流域、土地利用などの要素を組合せ、地域資源の集計単位であり、永続的に管理して行くための管理単位でもある基域 (ユニット) として、THINK-B 5 町村エリアを 32 に区分した。「地域資源管理ユニット区分」からは、以下のような内容を読み取ることができる。
 - ユニットごとの地域資源の分布状況や資源の分布量を把握する
 - 相互に組み合わせて各情報の相関を見る
 - 2つ以上の情報を総合的に判断する

4 .地域の望ましい資源利用のあり方に関する共通の認識や方向性を示すものとして、地域資源管理ユニットごとの資源の分布状況から基本的な留意事項を明らかにした。

地域資源は、地理的な位置と長い歴史に育まれた自然的要素、社会的要素の総体として形成されており、人々と環境との関わりや、保全・創造すべき環境のあり方も、それぞれの地域によって異なっている。

したがって、行政、事業者、住民が、地域資源を保全・創造し、利活用する場合には、法的なコンプライアンス（遵守）以前の問題として、地域資源利用のあり方に関する共通の認識や方向性を持ち、自然的条件や社会的条件などを十分に活かしながら、より良好な地域づくりを図っていくことが、大きな環境破壊を未然に防止する上でも重要である。

このため、今後、住民等の意見交換を通じ、更なる詳細な検討を経て運用されることが望ましい。

Key Words : 地域マネジメントシステム（RMS）、地域資源目録、地域資源管理ユニット、広域連携、住民参加